

スポーツ活動長期離脱経験と心理的競技能力の関連性の検討 に関する研究のお知らせ

帝京大学スポーツ医科学センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2022年8月24日～ 2023年3月31日

〔研究課題〕

大学チアリーディング選手における受傷による競技長期離脱経験が心理的競技能力に与える影響

〔研究目的〕

怪我による長期離脱経験が、このコロナ禍での競技形態の変更や競技時期の遅延、大会直前での練習自粛などストレスが多い状況において、非長期離脱経験者と比較して心理的競技能力にどのような影響を与えるのかを検討し、怪我の受傷経験がもたらす心理的变化がその後の選手生活においてどのような役割を果たすかを明らかにします。

〔研究意義〕

本研究で怪我による長期離脱経験の違いからの心理的競技能力の差や、影響をうける因子を明らかにすることは、長期離脱期間における心理サポートの必要性や重要性を知る手がかりとなり、リハビリテーション期間中の心理サポートとしての介入方法を検討することができます。このことは、長期離脱経験を競技復帰のためだけの心理面の成長だけでなく、競技生活全体でのストレスマネジメントスキル取得につながると考えられます。

〔対象・研究方法〕

対象者は以下の1～3の条件を全て満たす選手

- 1、本学チアリーディング部に2018年度～2021年度に所属
- 2、2021年度にプレシーズンおよびポストシーズン心理的競技能力検査を実施した選手
- 3、2021年度の全日本選手権大会に出場した選手

部活動サポート目的で収集していた選手のスポーツ外傷による長期離脱歴、傷害記録、2021年度のプレシーズン・ポストシーズンの競技能力検査のデータを利用し、その影響や関連性を検討します。

この研究のためだけに、新たに検査等を追加することはありません。

〔研究機関名〕

帝京大学スポーツ医科学センター

〔個人情報の取り扱い〕

資料は加工を行い個人が特定できないようにします。資料はパスワードでロックされファイルとして外付け HDD に保存し、研究責任者・情報の取扱者及び責任者(松永悠希)のみのアクセス可能とします。また、帝京大学にて分析した集計値等のみ共同研究者に提供しますが、個人を特定するデータの共有はありません。研究期間終了後、研究に用いた資料は「帝京大学・帝京大学短期大学における研究データの保存等に関するガイドライン」に基づき、原則として、当該論文等の発表後10年間保管し、その後全て破棄されます。

本研究で得られた情報は、将来別の研究に用いられる可能性があります。

対象となる選手で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名 松永悠希 職名 助教
所属: 帝京大学スポーツ医科学センター
住所: TEL: 042-690-5588 (代表) [内線 3785]